

# 平成 26 年度事業報告

## ① 事業所別予算に対する実績（予算達成率）

特 養            97.3%（稼働率 96.17%）   ショート   83.3%（稼働率 87.42%）  
デイサービス   90.0%（稼働率 71.71%）   居 宅   105.5%（前年度延べ人数 395 人）

## ② 運営

平成 26 年度は前年度と比較し、居宅を除いた各事業所で予算達成に至らなかった。

特養では松江市第 5 期介護保険事業計画による、既存特養の 5 床増床を公募により選定いただき 55 床体制でサービスを提供し、待機者の解消に繋げた。

ショートステイでは、前年度の稼働率低迷を鑑みて 26 年度の予算額を下方修正しつつ、空床利用も実施しながら高い稼働率を目指したが、利用者の高齢者住宅及び施設への入所により利用者が減少、また新規利用者の獲得が早期にできなかったことで、特に前期の稼働率が低迷したことが、予算達成に至らなかった主な要因と考える。

デイサービスは、稼働率が 25 年度 82.6%であったのに対して 71.71%に低迷、理由としては、利用者の新規や増回の希望もあり、26 年度に定員を 15 名から 20 名に増員、小規模型から通常型へ変更し、利用枠を拡大、前期は予算を上回る稼働率で順調であったが、年末に要介護 3～5 の重度の利用者が相次いでご逝去され、その後も施設入所等で利用者が減ったこともあり、稼働率は低迷した。

居宅介護支援事業所は、前期職員が 2 名体制となりケースも順調に増えていったが、職員 1 名の退職があり契約者数はいったん減少したが、現在（介護・予防含め）30 ケースまで増えてきた。地域包括ケアに視点を置きつつ、今後もきめ細かな支援を行っていく。

## ③ ケア全般

特養は利用者主体の統一したサービスの提供へ向け、平成 25 年度より各利用者の担当介護員が 24 時間シートを活用し、サービスの標準化に向けて取り組んでいるが、職員のアセスメント力に欠け、運用面で未だ十分なレベルに達していない。職員がアセスメント力を向上し、利用者個々のニーズを的確に引き出しつつ、他職種が連携し、より良いサービスを提供するため、新年度より 24 時間シート運用に必要なスキルアップ研修会を開催すると同時に、今後益々施設利用者が重度化していくことに対して、利用者の個々の状態把握及び状態変化に迅速・的確な対応を可能とするべく、薬や疾患等医療的な知識の向上と認知症・自立支援・看取りといった専門的ケアについて学び、個々のスキルアップに努める。

在宅サービスではショートステイ及びデイサービスを併用する利用者の情報共有とサービス間での格差の解消について検討が必要と考える。また、有料老人ホームやサービス付高齢者住宅等の高齢者住宅及びデイサービス等在宅サービスの乱立により、在宅利用者に対するサービスの競争が更に激化する見込みであり、新規利用者獲得に向けて一層の体制強化を検討する必要がある。

また、今年度も多くの研修会等へ積極的に参加したことにより、個々のスキルアップを図ることができた。25年度は施設外研修が多かったが、本年度は多くの職員が一同に揃い価値観を共有できる施設内研修の開催を増やし、更に学べる体制を整えた。(別紙 研修参加者参照)

#### ●口腔ケア

H24年6月より松浦Drを招き基礎研修を開催し、同年7月から歯科衛生士の個別ケア指導を開始。現在、定期的な個別指導を継続に行っている。平成25年度は3名であったことに対して、平成26年度は7名となった。このことについては利用者のADL低下によるものであり、予防的な対応が必要と感じる。

#### ●看取りケア

平成26年度は4名の看取りケアを実施した。看取りケアに対する振り返りから改善点をピックアップし、更なるサービス向上につなげるため、看取りケア終了後のデスカンファレンス等を充実させ、看取りケアについてPDCAサイクルにより更なるサービス向上につなげることが重要と考える。また、平成26年度は松江赤十字病院主催の地域医療従事者研修会「高齢者の終末期医療について」において「施設での看取りについて思う事」と題し、実践報告を行った。看取りケアに対するニーズの高まり、医療・介護がお互いの状況を把握し連携を強化しつつ、地域住民の看取りに対する意識を高めることの必要性を感じることができた。今後も継続して看取りケアに関する知識と技術向上と体制強化を図っていく。

#### ●認知症ケア

予備群を含めて800万人以上いると推測されている認知症患者に対するケアについては、認知症介護実践者研修、認知症対応型サービス事業管理者研修、外部講師を招いての施設内研修等に多職種の職員が積極的に参加、ケアの向上につなげている。平成27年度についても、施設内・外研修を企画し、スキルアップにつなげていきたい。

#### ④感染予防

2月にショートステイ利用者でインフルエンザA型の発症があり、そこから職員・ショートステイ及び特養の利用者を含め10名以上に蔓延。嘱託医と連携をとりつつ対応に努めたが、終息まで約20日間を要した。初動対応と情報共有が十分でなかったことが課題であり、感染予防と感染拡大防止に向けて組織体制を一層強化するべく取り組んでいく。

#### ④防災

原子力災害対策整備事業により、施設の気密化・自家発電装置等の整備を行ったことで、原子力災害等に対する機能が向上した。また地域が停電しても、自家発電装置等によって3日間、ほぼ通常の業務が可能となり、地域の拠点施設としての機能も向上した。今後は整備された設備等を活用しつつ、当該災害時の対応についてもマニュアル化が必要となる。

また、前年度に引き続き、大地震による大規模災害への対応訓練を実施。今回は施設長不在を想定し、経理課長が災害対策本部の指揮ととりつつ、各自がマニュアルをもとに緊張感を持って取り組んだ。松江消防署・地域の消防団・近隣の自治会にも視察をいただき概ね良い評価をいただいた。

近隣自治会である寺津自治会との災害時相互援助協定の締結を平成 27 年度に締結することとなり、今後は自治会の住民と合同訓練等を企画し、地域と共に災害に備える。

## ⑥苦情

特養：1 件、ショート 0 件、デイ 1 件、居宅 0 件

特養（施設）に対しては利用者へのケアについてであった。入所直後、利用者情報に 2 人介助と記入はあったが、詳しい移乗についての記載がなく、ストレッチャーから入浴用のストレッチャーへ移乗の際、利用者本人が安心できる対応ができなかった。その後、正しい移乗方法が分かった為、現在はその手順で行うことを徹底。以降は発生していない。

また、ショート利用に関する苦情は昨年度 0 件であった。

デイサービスでは、送迎車両が道路工事中や歩行中の人とすれ違う時は徐行してくださいという内容であった。このことについては、車間距離を十分に保ちつつ、道路の歩行者及び工事等で道幅が狭くなっているところでは、徐行すること、法令を遵守し、安全運転に努めるよう徹底した。

今後更に利用者や家族から気軽にご意見・ご要望がいただける環境を整備する。

（お褒めのお言葉も 1 件いただいた）

## ⑦地域交流

本年度も公民館・社会福祉協議会・民生児童委員協議会・福祉推進委員・ボランティアの方々や授産センター・近隣の介護サービス事業所の方々をはじめ、地域住民の皆様に行事等を通じて様々に交流ができた。（平成 26 年度行事報告参照）

地域支援の一環として介護保険改正と新たな地域の支えあいについて考えるフォーラムを開催、長野県から有識者を招き、松江市介護保険課長・市社協・地域包括支援センター及び地域住民約 70 名が参加して、改正される介護保険制度と松江市の第 6 期介護保険事業計画の説明、地域の高齢者を今後どのように支えるか？等について講演やパネルディスカッションを行い、参加者からは大変参考になったと好評を得た。

古江地区文化祭では、「西遊記・三蔵法師介護保険を利用するの巻」と題して、認知症になっても住みなれた地域で安心して生活ができるように、介護保険制度や介護サービスの利用方法、地域で支え合うことメッセージとして寸劇を披露し、好評を得た。

また、地域福祉の推進、生涯教育の一環として幼稚園・小中学校等の福祉体験学習の受入れも継続。古江小学校で高齢者への理解を深める講義も行った。地域の社会資源となるために始めた、清掃ボランティア活動も継続して毎回 3 名が参加。（3 月～11 月）その他、消防署・古江消防団の方々にも夜間想定の大規模火災訓練の視察や指導をいただき、総合的な地域とのつながりをさらに深めることのできた 1 年であった。

以上